

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	沖縄県宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	平成21年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4770500132&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成22年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は笑顔をもっと入居者と接し、利用者本位を優先とする支援を行っています。職員はもちろん、家族、訪問者などが、自ら老い、認知症になった時に「グループホームさくらで暮らしたい」と思っただけの「もうひとつの家庭」づくりを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室担当者を中心に利用者の立場に立ったケアを心がけ、プライバシー保護に対してさりげない配慮が見られる。新しい利用者には職員が入居前に居室を訪問したり、本人と家族に通ってもらったりして、利用前からなじみの関係となれるような支援をしている。ホームから市への積極的な働きかけで、平成21年11月に「認知症サービス事業所宜野湾市連絡会」が発足した。年2回以上実施する家族会では家族から活発に意見が出ており、管理者は職員や家族会、外部の意見を取り上げ、運営に反映させる前向きな姿勢を持っている。階下の小規模多機能型事業所と行事等を合同で行っており、また隣接する介護老人保健施設とは医療的な連携もとれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、法人の理念を核とし、独自のアンケートによる職員の意見をまとめて作られた。これまでの外部評価や実地指導等において、理念の一つひとつの文章を短くし、誰にでも分かりやすく見直しを図るように助言されている。現在は、「笑顔」をモットーに分かりやすい理念を思案中です。	過去の評価結果を受けて母体法人の理念のもとに、「いつも明るく」笑顔で対応、「いつも温かく」優しい気持ちで、「太陽のような存在」皆平等に愛情を持って接する、という理念を作成し、職員も理念に沿ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常に理念を念頭におき、目標に向けて職員間で話し合っています。	運営推進会議で自治会長から情報を得て、認知症の理解とケアについて職員が地域で話す介護教室の開催を自治会に申し込んでいる。事業所の行事案内を地域に配り、母体法人の施設と合同の納涼祭りには地域の方も参加している。	介護教室の開催を通して、地域の人々にホームを理解してもらい、協力が得られるよう、更なる関係作りに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	基本理念は玄関口に掲示している。ホームの理念は、ホーム内に掲示し、家族会において理解してもらえるように取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している運営推進会議委員には、サービスの内容を文面、口頭で報告している。委員からは、地域や行政の情報を得ています。	運営推進会議は定期的に開催され、参加者から提案された意見等は事業所で検討して取り入れている。議事録も作成し、欠席した方には次回の案内と一緒に直接手渡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	抑制に関する報告書や介護事故報告書を提出している。行事の案内や参加の依頼なども行っている。不定期ではあるが、現場主任が直接担当窓口に出向き、担当者との情報交換を行っています。今年度、「認知症サービス事業所宜野湾地区連絡会」が発足しました。	市の担当者は事業所の行事に参加したり、運営推進会議で出た話題の法的根拠を調べて情報提供したりしている。「認知症サービス事業所宜野湾地区連絡会」は事業所が積極的に市に働きかけて発足した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体抑制は行わない。緊急時やむを得ない身体抑制を行う場合は、家族への説明、承諾を得てから抑制を開始し、また、経過については、細かく記録に残すこととしています。職員は抑制に関する勉強会を受けることを義務付けています。	玄関のロック式の鍵は法人全体で統一管理され、事業所単独で鍵を変えることができない。身体拘束をしないケアについて、研修やミーティング等で話し合いを深め、職員が対応できる時は玄関を開放している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的だけではなく、職員の言動による虐待がないように常に注意を促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者なし。パンフレットの配布やホーム内に権利擁護に関するポスターを掲示しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時には文面に沿って十分な説明を行い、理解してもらった上で文面による同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、家族会、運営推進会議の場において、情報交換や意見、要望を聞くようにしています。	年2回以上家族会が開催され、家族からは事業所への意見や要望が出され、議事録も作成されている。面会時に家族から聞いた意見も含めて全職員で検討し、事業所運営に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「苦情相談の窓口」の案内を掲示するとともに、面会時(居室担当職員)に話をする機会をつくっています。要望等に対しては、ミーティング時に話し合っています。	予算等についても職員の意見を聞き、職員の希望に基づいて勤務体制も決められている。利用者のケアも居室担当者を中心に月1回のミーティングで話し合いながら支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康管理(年2回健康診断)、感染等予防接種(インフルエンザ、Hbワクチン)の実施、福利厚生を受けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知実務者研修、介護支援専門員などへの派遣、職員のレベルにあった法人内外研修・勉強会への参加ができるように勤務を組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「沖縄県グループホーム連絡会」や「宜野湾市認知症サービス事業所連絡会」へ参加して、情報の収集に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ1対1で話が聞ける時間をつくるようにしています。安心と信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、現場主任だけでなく、全職員が相談しやすい環境づくりをして、相談者の不安を受け止める努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合ったサービスが受けられるように他のサービス(施設)等の紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当職員を中心に入居者と寄り添い、本人の「できること」「やりたいこと」を見つけだし、共に行動するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、友人の面会はいつでも可能です。場合によっては、電話連絡を支援する場合があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆、正月帰省を促しています。帰省の送迎支援も行っています。	重度化が進み、買い物やなじみの美容室に行く利用者は少なくなったが、浜下りには全員で出かけている。教会の仲間が来て賛美歌を歌うこともある。また誕生日は家族にケーキを持参してもらい、家族と共に皆で祝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂、居間の座席配置については、入居者の状態、人間関係に合わせて配置換えも行っていきます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院お見舞いや法事等への参加、退居した家族との現況をお聞きしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当職員を中心に全職員で入居者の声を引き出している。また、家族からも聞き取りを行い、本人の立場に立って、ミーティング時において検討しています。	回想法で行事ごとに利用者から昔の話を聞き、本人の生活歴や本人の興味があること等を把握している。面会時やサービス担当者会議において家族からも情報を得て、個々の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時、入居時、面会時に生活歴の情報を得た上で、回想法を利用して個々の対応を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の1日の過ごし方を把握して、くつろぐ場所の確保、安心に協力(支援)しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の「気づき」を居室担当者へ報告し、担当者は確実に把握しています。ミーティングで入居者の状況を報告しあい、介護計画に反映しています。	職員や家族の意見も聞いて3ヶ月ごとのモニタリングと計画の見直し、また必要に応じた見直しも実施している。隣接する同法人の老人保健施設と連携し、リハビリの支援も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	居室担当者を中心に情報収集を行い、ミーティングで話し合い、介護計画に反映しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望はできる限り聞き入れ、本人の要望を介護の中心に捉え法人と連携してリハビリなどの支援も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡演奏、芝居依頼して来てもらった。介護専門学校や地域中学校ボランティア実習を継続して受け入れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や医療機関への情報提供を行っています。入居者の多くは協力医が主治医となっています。感染等予防接種(インフルエンザ、肺炎、新型インフルエンザ)の実施もスムーズに行えています。	受診時の送迎はリフト車で職員が対応し、受診は家族が付き添っている。定期受診等の医療機関への情報提供は文書で行われており、連携がスムーズにとれている。受診結果は受診時や面会時に家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置しています。入居者に異変等があった場合すぐに看護師へ報告・相談する体制づくりをしています。看護師は、協力医・薬局と連携し、適切に受診ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医、ソーシャルワーカーとの面談をもち、情報の交換などを行い、連携は整っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての勉強会は行いました。個々のレベルに合わせた対応方法は継続中である。	看取りについての勉強会をし、利用者や家族と個々のレベルに合わせ話し合っているが、意思確認書の作成には至っていない。事業所の今後の方針等について、利用者や家族の意向に沿ったケアの実現に向け母体法人とも検討を重ねている。	重度化や終末期のケアについては、利用契約時や早い時期に、事業所が対応できる最大のケアについて書面で説明されると共に、意思確認書の作成を望む。また、看取りケアについて今後の事業所の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿った対応を実践、定期的に救急法の実技・講習を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では、夜間想定した訓練も行っています。	夜間想定訓練を含め、年2回利用者も参加する避難訓練を行ない避難場所の確保もされている。防災器具点検も定期的に行ない、管理者は防火管理者資格を取得している。消防署の指導のもとスプリンクラーと避難袋の設置を予定している。	避難経路の確保(環境整備)、事業所作成のリストに沿った災害時の備蓄、予定されているスプリンクラーと避難袋の設置の早期実現を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カルテや個人記録は、事務所内の鍵付き戸棚に保管しています。入浴介助は、一人ずつ焦らず急がずゆったりと行っています。トイレ誘導時は、耳元で声掛けをするように心がけています。	個人記録等は鍵付きキャビネットで保管、管理されている。職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアに心がけ、居室への出入りもプライバシーの侵害がないように細心の注意を払い、一人ひとりの思いを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に意見・要望を聞き、自己選択できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態を把握しながら、本人の希望・要望に沿った支援ができるように努めています。嗜好品については、家族に確認して提供するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪は訪問美容室か行きつけの美容室を入居者の希望で選択できます。入浴時には、本人の衣服選びを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に合わせ、野菜切り、もやしのひげとり、配膳など共に準備をしています。職員も入居者と一緒に食事をします。	利用者のその日の様子や体調を見ながら、野菜の下ごしらえ、配膳など力量に合わせて手伝ってもらっている。食器類も個々の利用者の希望を取り入れ、食べやすいように工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表、水分摂取チェック表を活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援しています。場合によっては、協力歯科の訪問受診依頼も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1名を除いては定時声かけトイレ誘導を行い、排泄リズムの維持に努めています。	羞恥心や自尊心を傷つけないよう、さりげない対応に努めている。夜間オムツを使用している利用者も、日中は定時に声かけをしてトイレ誘導を行ない、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分摂取表を活用して、個々の状況を把握しています。嚥下の悪い方へはお茶ゼリーやトロミ剤を使用するなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせてシャワー浴やバスタブ浴を提供しています。入浴拒否が多く、曜日を決めて誘導していますが、拒否が強い時、体調に合わせて曜日・時間の変更は柔軟に対応しています。	個別対応で週2回、曜日を決めて支援しているが、他の日でも希望があれば対応可能である。シャワー浴とバスタブ浴の選択ができ、入浴拒否の場合は無理強いせず時間や曜日を替えて柔軟に対応している。異性対応の入浴介助は本人、家族の同意を得て支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ離床を促します。午後のおやつ時は、全員対象に余暇活動を実施しています。食後の仮眠時間は30分～1時間半ぐらいあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個々のカルテに綴っています。看護師を指示のもと、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	魚の餌やりや居間のカーテン開閉などを長期に実践する方、塗り絵をする方、職員と歌を歌う方、一人ひとりに合わせて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ミニドライブの支援を行っています。今年、新型インフルエンザの影響で外出の機会は少なかったです。	新型インフルエンザの流行で外出の機会は少なかった。しかし、庭を散歩したり、景色を眺めたり、地域のスーパーへ買い物やミニドライブなど、利用者の希望に沿った支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は金銭管理ができないため、家族の希望でお小遣いはホームで預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、手紙を届けたり支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、季節ごとの花や絵画を掲示しています。廊下には椅子を配置して、くつろげる空間を設けています。	ホールからは庭の緑や花が眺められ、ソファや椅子を配置してくつろげる空間となっている。トイレに配置した植木はプライバシーへの配慮と安らぎ感があり、利用者と共に作った廊下壁面の飾り付けが季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に4ヶ所、廊下に3ヶ所ソファを設置して、個々が好きな場所でくつろげる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に使い慣れた小物の持ち込みや家族による写真などが飾られています。光に敏感な方の窓は、遮光カーテンを取り入れています。	居室はプライバシーに配慮したつくりで、利用者の好みのものや宗教等を含め馴染みの家具等の持ち込みも可能である。利用者は思い々に部屋を飾り、遮光カーテンを取り付けたり、テレビを設置したりと居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事時間、居室に氏名表示、トイレの表示、カレンダー、入浴日などの掲示をしています。		